

別紙様式 1

令和 6 年度明德中学校区研究推進計画

校番 (20) (明德中学校)

校長名 荒森 圭子

1 学校教育目標

「自ら学び ともに伸びる」

2 目指す児童生徒像

「自他を尊重し、自ら考え判断し、意欲的に自己を表現する子ども」

3 育成を目指す資質・能力 (具体の姿)

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
資質・能力 設定した	学習の素地としての基礎的・基本的な学習内容を習得し, 他の学習や生活の場面で活用する力	各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら, 知識を相互に関連付け, より深く理解する力	他者との関わりを通して, 自らの学びを調整しながら, 粘り強く学びに向かおうとする力
後期	必要な知識・技能を習得しており, 他の学習や生活の場面でも活用している。	複数の情報を多様な方法で関連付け, 論理的に, 自分の考えを表現している。	自らの学びを目標と照らして振り返り, 次の学びにつなげようとしている。
中期		複数の情報を結び付け, 理由や根拠を明らかにして, 筋道立てて, 自分の考えを表現している。	
前期		理由や根拠を明らかにして, 筋道立てて, 自分の考えを表現している。	

4 研究主題等

(1) 研究主題 自他を尊重し、自ら考え判断し、意欲的に自己を表現する子どもの育成
～ 子どもが進める「めいとく・トライ」の取組を通して ～

(2) 設定理由 (校区の児童生徒の課題分析等)

子どもたちを取り巻く社会は、少子高齢化、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等、急速な変化により、予測が困難な時代となっている。このような時代を生き抜くためには、子どもたちが自ら考え、自分たちの答えを導き出していく力を学んでいくことが不可欠であり、自己実現を図っていくための基礎を義務教育段階で培っていくことが大切である。本中学校区においても、この力を育成するにあたり、児童生徒の現状を小中合同で分析し、実態に基づく取組を進めていきたいと考えた。

これまで、本中学校区では、学力調査等の分析を基に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、授業改善に取り組んできた。また、地域の構成員の一人としての参画意識及び自己有用感の育成に向け、教師は一人一人の児童生徒に寄り添い、きめ細やかな

指導を展開してきた。さらに、防災教育の深化を目指した取組も充実させてきた。

これらの3点の取組により、児童生徒は、前向きに学習に取り組んできたため、育成を目指す資質・能力が育ってきている。反面、小集団であるため、多様な考えに触れる機会が限られ、児童生徒の学びを広げることが十分でない。さらに学びを広げ深めるためには、児童生徒が自ら学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学習を進めることが必要であると考えた。

そこで、本中学校区では、「自ら考え判断し、意欲的に自己を表現する子ども」を「主体的に学ぶ子ども」と捉え、こういった子どもの育成を図ることを研究主題とした。研究推進にあたっては、これまで取り組んできた3点をより充実させ、「自他を尊重する児童生徒の育成」を研究テーマとする「つながり部会」と、「主体的に学ぶ児童生徒の育成」を研究テーマとする「授業改善部会」を設け、目的と方法を共有しながら取組を進めることとする。

また、取組の柱として、本中学校区の特色である小集団や地域・社会との結びつきを生かした「めいとく・トライ」の取組を推進する。その中では、子どもたちが自ら追究したい「問い」を生み出せるように、学習に必然性をもたせていくとともに、次の学習の見通しがもてるように振り返りを充実させる。その後、学習の進め方について自己決定し、個々が協働しながら試行錯誤する活動を通して、子どもたちが自らの学習を調整しながら学習を進めていけるようファシリテートしていく。この「めいとく・トライ」の取組により、子どもたちが構築した新たな価値を学校や地域・社会などの実生活の中で生かしていくことで、「自ら考え判断し、意欲的に自己を表現する子ども」の育成を目指していく。

(3) 研究仮説

「めいとく・トライ」を構築し、子どもが、協働しながら、自らの学びや活動を自己決定して進めるような取組を推進すれば、自他を尊重し、自ら考え判断し、意欲的に自己を表現する子どもを育成することができるであろう。

5 研究内容

(部会テーマ) 自他を尊重する児童生徒の育成

	研究内容
つながり部会	(1) 地域の構成員としての意識の育成 <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が主体となり、企画・運営する行事や学習活動の推進 異年齢の子どもや地域社会など、世代を越えた交流の場の設定 (2) 家庭・地域を巻き込んだ防災教育の深化に向けた取組 (3) 生活習慣を再認識させるための取組（小：歯磨き 中：メディアコントロール） (4) SELを活用した共感的な人間関係の育成

(部会テーマ) 主体的に学ぶ児童生徒の育成

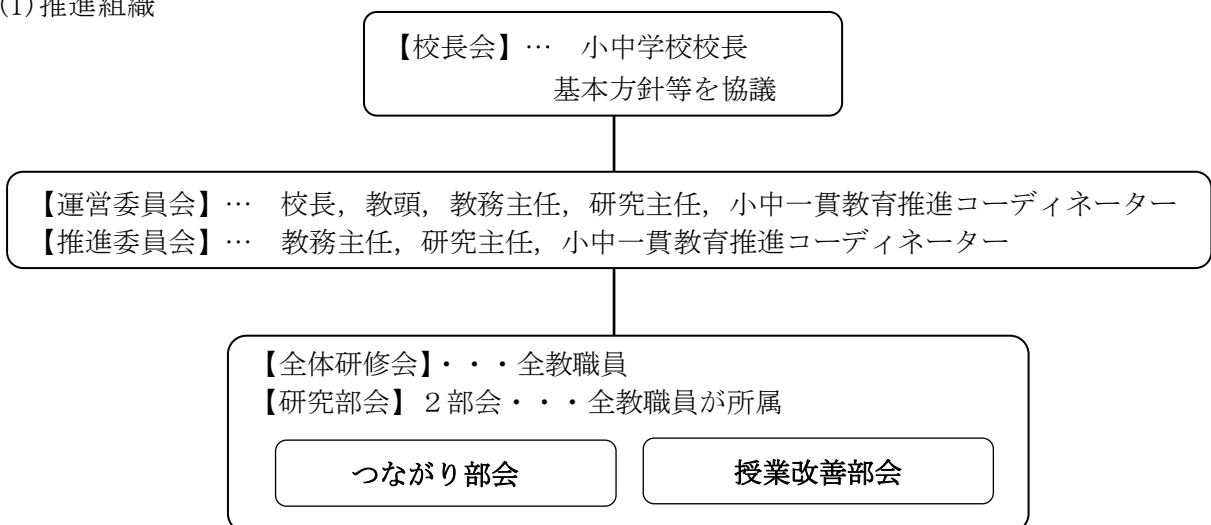
	研究内容
授業改善部会	(1) 「めいとく・トライ」の構築・推進 <ul style="list-style-type: none"> 子どもが追究したい「問い」の設定 子どもが自己調整しながら進める学習 振り返りの充実 (2) 特別支援や児童生徒理解の視点を取り入れた一人一人に寄り添う教育活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の学習課題に応じた学習フリータイム・家庭学習

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	学校生活アンケート	・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	肯定的な回答 小 83% 中 83%	肯定的な回答 小 88%以上 中 88%以上
	学校生活アンケート	・学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	肯定的な回答 小 89% 中 95%	肯定的な回答 小 94%以上 中 90%以上
	標準学力調査等	・平均通過率 全国平均との差	小 +2.8 (国・算の平均) 中 +2.8 (国・数の平均)	小 +5 中 +3
② 地域の構成員の一人としての参画意識及び自己有用感の育成	全国学力・学習状況調査	・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。	肯定的な回答 小 94% 中 79%	肯定的な回答 小 95%以上 中 80%以上
	学校生活アンケート	・自分にはよいところがあると思っている。	肯定的な回答 小 85% 中 92%	肯定的な回答 小 90%以上 中 90%以上
③ 防災教育の充実	学校生活アンケート (児童生徒・保護者)	・地域に起こりやすい災害や避難の仕方について理解している。	肯定的な回答 小 94% 中 100%	肯定的な回答 小 100% 中 100%
		・学校からの防災教育等の情報発信は十分である。	肯定的な回答 小 96% 中 94%	肯定的な回答 小 98%以上 中 95%以上

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 乗り入れ授業

(中→小)

- ・ 小学校全学年 音楽科（2学期）全校合唱指導
- ・ 小学校第5・6学年 体育科（2学期）陸上指導
- ・ 小学校第5・6学年 体育科・総合的な学習の時間（2・3学期）ダンス「音戸の舟唄」の指導（特別非常勤講師とのTT）

(小→中)

- ・ 長期休業中の学力補充

8 推進計画（予定）

月 日	内 容	
	明德中	明德小
4月 5日（金）	今年度の計画（日程など）の詳細決定	
4月17日（水）	○全体研修会① 方向性や取組等の共通理解 ○研究部会①（各部会）取組の共通理解・年間計画，研究テーマの確認	
5月～6月	・校内研修	・校内研修
6月10日（月）	○全体研修会② 授業研究（中学校）を実施 大学教授を招聘しての全体研修 ○運営委員会① 進捗状況確認，情報交換	
7月	・校内研修	・校内研修
7月 2日（火）	○全体研修会③ 授業研究（小学校）を実施 大学教授を招聘しての全体研修	
8月 9日（金）	○全体研修会④ 研究公開に係る準備，指導案検討 ○運営委員会② 進捗状況確認，情報交換	
8月19日（月）	○研究部会② 進捗状況確認，情報交換	
9月	・校内研修	・校内研修
9月10日（火）	○全体研修会⑤ 授業研究（小学校）を実施	
10月22日（火）	○全体研修会⑥ 研究公開	
11月8日（金）	○明德中学校区保小中合同避難訓練	
12月	・校内研修	○校内研修
12月24日（火）	○全体研修会⑦ 進捗状況確認，情報交換 ○研究部会③ 進捗状況確認，情報交換 ○運営委員会③ 進捗状況確認，情報交換	
1月28日（火）	○全体研修会⑧ 授業研究（中学校）を実施	
2月	授業研究（小学校）	
2月 5日（水）	○研究部会④（各部会）取組のまとめ	
3月11日（火）	○運営委員会④ 次年度に向けての計画作成	

※ 上記の他，それぞれの校内授業研究での小・中学校教職員の相互参加を予定

○ 「小中一貫教育だより」の発行

- ・ 1学期 明德小学校（幹事校），2学期 明德中学校，3学期 明德小学校

○ 小中合同行事の実施

- ・ 保小中「合同防災避難訓練」